

取扱注意		
解 禁	新聞	12月13日(土)朝刊
	ラ・テ・	12月12日(金)
	インター ネット	15時以降 (国審議会終了後)

資料提供
教育庁文化財課 文化財グループ 熱田貴保 (22-5880) 勝部智明 (22-5879)

登録有形文化財（建造物）の登録について （記者発表資料）

1. 文化審議会答申の概要

国の文化審議会（会長 いしざわよしあき 石澤良昭）は、12月12日（金）に、下記物件を登録有形文化財へ登録するよう、文部科学大臣に答申する予定である。

登録有形文化財（建造物）

名 称	所在地	年 代	種 別	
<small>きゅうごうつゆうびんきょく</small> 旧江津郵便局	江津市江津町	明治中期／平成20年改修	建築物	官公庁舎
<small>ふじたけじゅうたくしゅおく</small> 藤田家住宅主屋		嘉永6年(1853)	建築物	住宅
<small>うちぐら</small> 藤田家住宅内蔵		明治前期	建築物	住宅
<small>しんぐらおよびりょうりば</small> 藤田家住宅新蔵及び料理場		明治前期・大正前期	建築物	住宅
<small>ひがしぐら</small> 藤田家住宅東蔵		明治前期	建築物	住宅
<small>きたぐら</small> 藤田家住宅北蔵		明治前期	建築物	住宅
<small>みなみぐら</small> 藤田家住宅南蔵		明治前期	建築物	住宅
<small>おもてもん</small> 藤田家住宅表門		江戸末期	工作物	住宅
<small>へい</small> 藤田家住宅塀		江戸末期	工作物	住宅
<small>はなだいいんしんりょうしよおよびしゅおく</small> 花田医院診療所及び主屋		昭和12年	建築物	文化福祉
<small>もんおよびへい</small> 花田医院門及び塀	昭和前期	工作物	文化福祉	
<small>なかむらけじゅうたくしゅおく</small> 中村家住宅主屋	江津市桜江町	明治15年／明治18年増築・昭和63年改修	建築物	住宅
<small>せとぐら</small> 中村家住宅背戸蔵		江戸末期／明治前期改修	建築物	住宅
<small>なんどくら</small> 中村家住宅納戸蔵		明治前期／昭和28年頃改修	建築物	住宅
<small>こめぎつぐら</small> 中村家住宅米雑蔵		江戸後期／昭和前期改修	建築物	住宅
<small>きゅうごうぐら</small> 中村家住宅旧郷蔵		弘化4年(1847)／昭和中期改修	建築物	住宅
<small>のうぐこ</small> 中村家住宅農具庫		明治15年頃	建築物	住宅
<small>いしがき</small> 中村家住宅石垣		江戸前期／江戸末期改修	工作物	住宅

2. 登録有形文化財（建造物）の件数

	現在の件数	今回の登録答申件数	合 計
島根県	84件	18件	102件

3. 県内の登録有形文化財

別紙のとおり

4. 答申予定の文化財（建造物）

旧江津郵便局

【所在地】 島根県江津市江津町

【所有者】 江津市

【概要】 旧江津郵便局は、江の川河口付近の左岸、江津本町に位置する。本町はかつて天領（大森銀山）に属し、近世山陰道の通過点でもあった。水路・陸路の拠点として栄え、明治5年に郵便取扱所が設けられた。

今回登録となる局舎は、3代目局長 飯田源之丞を建築主とし、明治中期（18年頃）に建てられたと考えられる。建築依頼を受けた地元木材商 豊田富藤太郎は、神戸の西洋風の貿易館を

模倣したつもりであったが、実見したのが教会であったため、当初は赤や緑の窓ガラスという

派手なものとなり、近隣住民を驚かせたという。当時の局舎は、引受人の自宅が充てられたため、局舎として使用されたのは源之丞が在任した明治28年までであった。

局舎は、木造2階建、寄棟造棧瓦葺で、正面1階をポーチとし、2階にバルコニーを設ける。外壁は白漆喰仕上げで、蛇腹状の軒先、鼠漆喰で模造されたコーナーストーン、青色に塗装された柱や窓枠が外観上の特徴となっている。内部は個人住宅として後世に改造されているが、地元の職人が見真似で取り入れた擬洋風建築物であり、郵便制度施行後間もない局舎として貴重である。また、本町の伝統的な家並みに彩りを添えている。

平成18年2月に江津市に寄贈され、平成20年2月に外部復元修理工事が竣工した。現在、内部復元方針、活用方法等が検討されている。



旧江津郵便局

藤田家住宅主屋ほか

【所在地】 島根県江津市江津町

【所有者】 個人

【概要】 本町通りに西面する藤田家は、鉄を中心に、紙・塩・米等を扱った江津湊の間屋で、町年寄も務めた旧家。

主屋は、木造つし2階建、切妻造石州瓦葺で、大屋根に煙出しを設け、壁は白漆喰塗の大壁造。間取りは通り土間に六間取りとし、大森銀山から江の川流域の庄屋級又は武家屋敷に見られる鍵座敷となっている。小屋裏の板図から、嘉永6年（1853）の建築と判明。明治～大正期にかけて増・改築されて現在に至っている。

主屋の後方には、土蔵造2階建、石州瓦葺の内蔵、新蔵及び料理場が建ち並び、これら周囲を取り囲む表門と塀と一体となって本町川沿いの歴史的な佇まいを形成している。また、本町通りを挟んだ向かい側の敷地には、一部改造されているものの東蔵、北蔵、南蔵が遺る。

大規模近世住宅としての屋敷構えを伝える貴重な遺構といえる。



藤田家住宅主屋

花田医院診療所及び主屋ほか

【所在地】 島根県江津市江津町

【所有者】 個人

【概要】 本町通りに面した、昭和12年築の個人病院と住宅。和風を基調とする主屋は、寄棟造の木造2階建を中心に、入母屋造の玄関、背面の半切妻造の台所などから構成される。正面左手には半切妻造で洋風意匠の診療所が付設する。複雑な屋根構造と、カーキ色の石州瓦、外壁薄緑色の診療所が特徴で、江津本町通りの景観の中で一際印象的な存在。RC造洗出しの門柱、塀も併せて登録対象となる。



花田医院診療所及主屋

中村家住宅主屋ほか

【所在地】 島根県江津市桜江町大貫

【所有者】 個人

【概要】 江の川右岸の山裾に位置する中村家は、近世にはタタラ製鉄や水運業、庄屋役を務めた旧家。主屋は高く石垣を築いた屋敷地に建ち、主屋周囲には背戸蔵・納戸蔵・米雑蔵・農具庫・旧郷蔵が建ち並ぶ。明治15年に新築された主屋は、木造つし2階建、切妻造。外壁を白漆喰で塗り込め、屋根には石州赤瓦を葺き風格のある外観をもつ。玄関には片引き大戸（潜り戸付き）が今も残る。

旧郷蔵は、旧大貫村の郷蔵で、弘化4年(1847)に美郷町浜原から解体移築されたもの。年貢米の一時保管や、凶作等に備える穀物貯蔵庫として使用された。

【問い合わせ先】

●江津市教育委員会生涯学習課

担当：梅木茂雄

TEL：0855-52-2501

52-3289 (分室)



中村家住宅主屋



中村家住宅旧郷蔵